（別紙３）

# 公表　事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ○事業所名 | コロニー児童デイサービスとみぐすく発達支援 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | R7年　1月　4日 | ～ | R7年　1月　31日 | |
| ○保護者評価有効回答数 | （対象者数） | 12人 | （回答者数） | 11名 |
| ○従業者評価実施期間 | R7年　1月　4日 | ～ | R7年　1月　22日 | |
| ○従業者評価有効回答数 | （対象者数） | 8人 | （回答者数） | 8人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年　3月　24日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 施設敷地が広く、デイルーム、屋外活動ともにのびのびと活動ができる環境がある。また、個別の支援が必要な場合には、個別でお話したり、遊べる個室・環境を作ることができる。 | R6.11よりスペシャルタイムを設けて、デイルームの遊びがしたいか?屋上遊びがしたいか?虫遊びがしたいか?など児童に自分の遊びたい遊びを選択する時間を設けて愛着形成を実施。実施したことで、児童のお友達に対する言葉かけの変化や、気持ちの切り替えがスムーズになるなどの効果が出た。 | 畑を利用し、花などを植え、目で見て楽しめる環境を作ることで地域の方、通りすがりの方々へデイに関心を持ってもらったり、交流する機会を増やすことで地域との繋がりをもつ。こどもたちも来訪者がきれいな花などを見てくれることで自己肯定感を高める。 |
| 2 | コドモンアプリの利用や送迎・家族交流の場を設け、話しやすい環境を作っている。 | 1日の活動の様子を写真を添えてのお便り。<br>2ヶ月に1度のコロニーだよりの発行<br>活動計画の事前配布<br>親子参加行事<br>父母対象のゆんたく会(児童は、兄弟児含め別室預かり)<br>急な相談に対しては、直接または電話にて随時受付。内容に寄っては各関係機関との連携調整まで行ってる。 | ゆんたく会の内容充実(こどもの発達に合わせた支援方法、家族から希望されたテーマの設定等)<br>親子参加型の活動について家族が参加しやすい内容の設定。<br>コロニーだより以外に、健康面のおたよりや、障害特性にあった支援方法の情報だよりを発刊する。<br>横の繋がりを広げていける活動も導入していく。 |
| 3 | 5領域に合わせた活動内容の組み立てを実施。個々児童の成長に合わせて、活動の内容の工夫(必要に応じて施設内理学療法士、作業療法士、言語聴覚士へ相談し発達段階に合わせた活動・支援法のアドバイスを頂きながら組み立て)をしている。 | 個別の言語訓練以外で、日常会話の中で訓練できる内容を言語聴覚士から指示を仰ぎ取り入れて支援している。日常の中で児童のできるところ、できないところなどの把握と支援方法を職員間で共有し、ご家族へも同様に伝えるようにしている。それを元に活動内容を工夫して支援を実施している。 | 愛着形成を図りながら、感覚統合を意識した活動の幅を広げる。<br>職員研修を設けて、障がいのある児童の理解を深め、気づきが多く見出せるようにする。<br>連絡簿なども活用しながら職員間の連携(報告・連絡・相談)を図る。<br>地域資源を活用した活動の取り込み。(いろいろなことを経験する・活動がマンネリ化しない取り組み) |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 固定の事業所や学童、児童館で地域の方と交流する機会は設けているが、近隣の方との交流は挨拶程度となっており、非常災害時の際にお互いに協力しあえる環境を作ることが大切なので、地域の方と交流機会が必要。 | すぐお隣の学童さんとは、ハロウィンなどで交流しているが、災害や防災の視点から協力する体制を作ることは想定せず、自事業所だけで体制を作っていた。楽しみながら行える活動のみの策定に気をとられていた。 | 事業所が開かれた場所として多くの方が関心もてるように環境の工夫をする。<br>地域の方を巻き込んだ活動について検討する。 |
| 2 | 活動内容がマンネリ化せず、様々な児童に合わせた(5領域の視点)活動の工夫が必要であるが、十分にそれがされているか問われると十分ではない。もっと工夫する取り組みは必要。 | 5領域の詳細について職員が十分に把握できていないことや、児童の障がいの特性、発達段階などさまざまことが十分に理解できてないところがある。理解を広げるための研修ををもっと行うべきだった。 | 障害特性、支援方法、行動療法等、様々な研修がある中、何から研修をした方が良いかも考えながら、次年度の研修計画を組み立てて計画的に実施していく。 |
| 3 | シフト勤務による連携不足がある。連携簿を作成し、連携を図っているが、連携簿に記載することができずに口答での連携がまだ多い。 | 連携簿に記載する意識がまだ定着していない。書くタイミングを逃している。 | 日頃からちょっとしたことでも連携簿に記載する意識を持たせる。記載されていない場合、口答での連携があった場合、連携された職員は連携簿に記載したか確認の声かけをする。 |